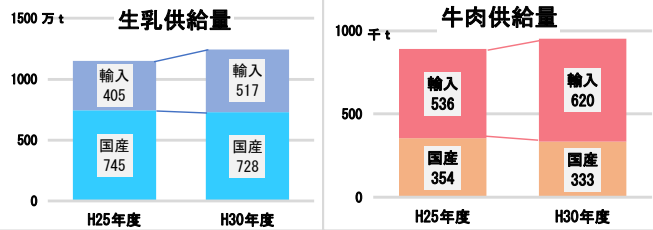


【状況変化】

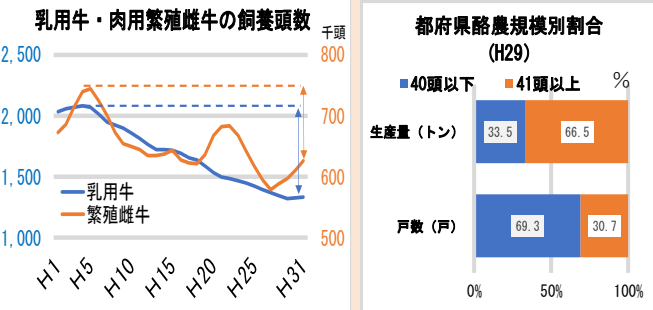
畜産物需要と輸入の増加

- 畜産物の需要は堅調に推移。生産は回復しつつあるものの、生乳、牛肉ともに需要の伸びに対して供給が追い付かず、輸入が増加



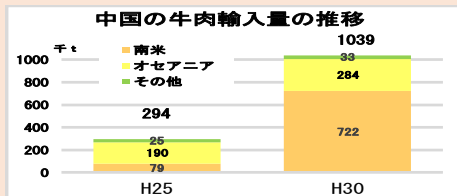
安定供給に向けた生産基盤回復のスタート地点

- 規模拡大等により生産基盤の縮小に歯止めがかかりつつあるが、安定的な供給増加には至らず
- 酪農では都府県の生産基盤は縮小が継続し、北海道からの生乳移送も限界
- 大規模経営だけでなく、中小規模の家族経営の生産基盤の充実による増産が必要



国際環境の変化

- TPP11、日EU・EPA、日米貿易協定の発効、アジアの食肉需要の増加に伴い安定的に輸入出来なくなる恐れ等、国際環境が大きく変化
- 日米貿易協定による米国へのアクセス改善や中国への牛肉等の輸出再開に向けた動きは、輸出拡大の大きなチャンス



持続可能な発展

- 畜産環境問題への対応
- 国内外での家畜疾病の発生や相次ぐ自然災害
- 世界人口の増加に伴う穀物需給のひっ迫



【構成】

海外市場を含め拡大が見込まれる需要に応えるための生産基盤の強化
次世代に継承できる持続的な生産基盤の創造

I 生産基盤強化策

地域内での連携により取組を推進

1 酪農の方向性

牛乳・乳製品の安定供給、乳製品需要に国産生乳で対応するため、「都府県酪農の生産基盤の回復」、「北海道酪農の持続的成長」、「全国の酪農経営の持続的な経営展開」を目指し、都府県の既存牛舎の空きスペースを活用した増頭、外部支援組織の育成、性判別技術の活用、経営資源の継承等を推進

2 肉用牛の方向性

新たな国際環境下における牛肉の安定供給、新たな市場獲得のため、「和牛の繁殖雌牛の増頭」、「和牛肉生産量の増大」、「輸出の大幅な拡大」を目指し、中小規模の家族経営や公共牧場・外部支援組織等の活用も含めた増頭、酪農経営による和牛受精卵の利用、経営資源の継承等を推進

3 生産基盤強化の具体策

(1)肉用牛・酪農経営の増頭・増産

・繁殖雌牛・乳用後継牛の増頭推進、和牛受精卵の増産・利用推進、公共牧場等のフル活用による増頭・増産 等

(2)中小規模の家族経営を含む収益性の高い経営の育成と経営資源の継承

・新技術の実装等による生産性向上等・投資の後押し等による規模拡大の推進、経営能力の向上
・後継者不在の経営の経営資源を地域で円滑に継承するためのシステム構築 等

(3)経営を支える労働力や次世代の人材の確保

・外部支援組織の新技術の実装、酪農ヘルパーの要員確保等の外部支援組織の育成・強化
・農業高校等の人材確保に資する雇用就農やICTの活用等経営環境の変化に対応できる多様な人材の登用を推進等

(4)家畜排せつ物の適正管理と利用の推進

・堆肥のペレット化等による耕種農家のニーズに合った高品質な堆肥の広域流通、堆肥舎の長寿命化の推進 等

(5)国産飼料基盤の強化

・適正な草地更新や適期収穫、優良品種の普及、草地整備等による低コストで安定的な自給飼料生産の一層の推進
・条件不利な水田等での放牧、気象リスクへの対応 等

(6)経営安定対策の適切な運用

II 需要に応じた生産・供給の実現、流通の合理化

1 生乳

・需要の高い直接消費用チーズ等の乳製品製造に向けた高品質生乳の生産と商品開発等の事業投資の推進、各種制度の適切な運用による生乳需給の安定
・新制度を活用した酪農経営等による付加価値を高めた乳製品の開発・製造販売の推進、あまねく集乳する指定事業者が果たすべき生乳流通・販売に係る機能の確保、新たな制度下での適切な生乳流通体制の構築 等

2 牛肉

・消費者ニーズにマッチした多様な牛肉生産、消費者の選択に資する食味等の指標化、食肉処理施設や家畜市場の再編整備による生産現場と結びついた流通改革の推進 等

3 輸出の戦略的拡大

・欧米等向け輸出のための高度な衛生水準を満たす食肉処理施設・乳業施設の整備、施設認定の迅速化 等
・ブランド価値を守るための和牛遺伝資源の流通管理の徹底、知的財産的価値の保護の強化 等

III 持続的な発展のための対応

1 災害に強い畜産経営の確立

・各経営や地域での災害の備え
・飼料穀物の備蓄、非常用電源設備の導入促進等による甚大な被害からの早期の経営再開 等

2 家畜衛生対策の充実・強化

・「持ち出させない」「持ち込ませない」ための水際検疫、「農場に入れない」国内防疫の徹底 等

3 持続的な経営の実現と畜産への信頼・理解の醸成

・GAP、資源循環型畜産等の推進
・HACCP等製造・加工段階での衛生管理や飼料・動物用医薬品等の安全確保等を通じた消費者の信頼確保
・畜産への国民理解の醸成、食育等の推進 等

生産基盤強化により
目指す姿

国内の高い畜産物需要に応じた
国産畜産物の供給を実現する。

戦略的な輸出により
積極的に
海外市場を
獲得する。

産業として
持続的な
発展を図る。

酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針 (構成案)

第1 酪農及び肉用牛生産の近代化に関する基本的な指針

I 酪農及び肉用牛生産をめぐる情勢の変化と基本的な方向

1 総論

- ・ 近年、国内の畜産物需要は堅調に推移する一方、需要の伸びに対して供給が追いつかず、輸入が増加
- ・ 規模拡大等により生産基盤の縮小に歯止めがかかりつつあるが、安定的な供給には至らず、現状は安定的な供給に向けた生産基盤回復のスタート地点
- ・ このため、中小規模の家族経営も含めた生産基盤の充実による増産に取り組む必要
- ・ 加えて、貿易協定の成果による輸出関税撤廃等や中国への牛肉等の輸出再開に向けた動きは、輸出拡大の大きなチャンス
- ・ 海外市場も含め「拡大が見込まれる需要に応えるための生産基盤強化」と「次世代に継承できる持続的な生産基盤の創造」を目指す

2 生乳の需給事情の変化と対応方向

- ・ 牛乳・乳製品の需要は安定的に推移、チーズ等の乳製品需要の増加に対応し、輸入乳製品が増加
- ・ 都府県の生産基盤は縮小が継続し、北海道からの生乳移出も限界
- ・ 牛乳・乳製品の安定供給、乳製品需要に国産生乳で対応するため、「都府県酪農の生産基盤の回復」、「北海道酪農の持続的な成長」、「全国の酪農経営の持続的な経営展開」を目指す

3 牛肉の需給事情の変化と対応方向

- ・ 牛肉消費量の回復に対応し、輸入牛肉が増加
- ・ 中国をはじめとするアジアの食肉需要の増加に伴い、安定的に輸入出来なくなる恐れ
- ・ 国産牛肉への根強い需要への対応
- ・ 中国への輸出解禁の期待や日米貿易協定による米国へのアクセス改善など輸出拡大の好機
- ・ 新たな国際環境下における牛肉の安定供給、新たな市場獲得のため、「和牛の繁殖雌牛の増頭」、「和牛肉生産量の増大」、「輸出の大幅な拡大」を目指す

II 生産基盤強化のための対応方向

1 酪農の生産基盤強化

- ・ 都府県の生産基盤回復を図るための既存牛舎の空きスペースも活用した増頭
- ・ 持続的な経営展開を図るための酪農ヘルパー等の外部支援組織の育成、活用や新技術の実装、性判別技術の活用
- ・ 生産基盤の縮小を防ぐための経営資源の担い手への計画的な継承 等

2 肉用牛の生産基盤強化

- ・ 繁殖基盤を強化するための中小規模の家族経営や公共牧場・キャトルステーション等の外部支援組織等の活用も含めた増頭、酪農経営による和牛受精卵の利用
- ・ 持続的な経営展開を図るための外部支援組織の育成、活用や新技術実装
- ・ 生産基盤の縮小を防ぐための経営資源の担い手への計画的な継承 等

3 地域連携の取組の推進

- ・ 労働力不足や規模拡大が進む中、①農協等が介在した離農農場の新規就農者への継承、②外部支援組織による労働負担軽減、生産性向上、③重要な肉用牛の生産基盤でもある酪農経営と連携した肉用牛増産等の地域連携の取組を推進し、生産基盤を強化 等

III 生産基盤強化のための具体策

1 肉用牛・酪農経営の増頭・増産

- ・ 繁殖雌牛・乳用後継牛の増頭の推進
- ・ 和牛受精卵の増産・利用の推進、性判別技術の活用
- ・ 地方公共団体の公共牧場や試験場等のフル活用による増頭・増産 等

2 中小規模の家族経営を含む収益性の高い経営の育成と経営資源の継承

- ・ 新技術の実装等による生産性向上等
新技術の実装・開発による生産性の向上・労働負担の軽減、生産関連データに基づく経営判断の支援、持続的な経営に資する牛づくりのための家畜改良の推進
- ・ 投資の後押し等による規模拡大
施設・家畜等への投資の後押し、外部支援組織や簡易畜舎の活用による増頭
- ・ 持続的な発展のための経営能力の向上
法人化等による経営の見える化、経営判断の高度化
- ・ 後継者不在農家の経営資源を地域で円滑に継承するためのシステム構築 等

3 経営を支える労働力や次世代の人材の確保

- ・ 飼料生産組織や預託施設の新技術の実装、酪農ヘルパーの要員確保等による外

部支援組織の育成・強化

- ・ 農業高校等の新たな人材確保に資する雇用就農
- ・ ICTの活用等経営環境の変化に対応できる多様な人材の登用（アドバイザー、女性、高齢者（離農者）、農福連携、外国人材） 等

4 家畜排せつ物の適正管理と利用の推進

- ・ 生産基盤の強化に伴い必要となる畜産環境対策の着実な実施
- ・ 肥料取締法改正を踏まえ、堆肥と化学肥料の配合、ペレット化による耕種農家のニーズに合った高品質な堆肥の広域流通の推進
- ・ 堆肥舎の長寿命化や臭気や排水に係る環境規制への適応のためのコストパフォーマンスが高い処理施設の整備の推進 等

5 国産飼料基盤の強化

- ・ 適正な草地更新や適期収穫による良質粗飼料の確保、優良品種の普及や草地整備等による低コストで安定供給可能な自給飼料生産の一層の推進、条件不利な水田等での放牧、気象リスクへの対応 等
- ・ エコフィード原料の安定的な調達、子実用とうもろこしの生産、利用体系の構築等による国産濃厚飼料の生産・利用拡大 等

6 経営安定対策の適切な運用

- ・ 総合的なTPP等関連政策大綱に基づき、見直し・充実が図られた経営安定対策の適切な運用

IV 需要に応じた生産・供給の実現のための対応

1 生乳

(1) 需要等に応じた生乳と牛乳・乳製品の安定供給

- ・ 生産者、乳業者、関係団体、国によるそれぞれの必要な取組の下、需要の高い直接消費用チーズ等の乳製品製造に向けた高品質牛乳の生産と商品開発等の事業投資の推進
- ・ 加工原料乳生産者補給金制度、国家貿易等の適切な運用を通じた生乳需給の安定 等

(2) 社会情勢の変化に対応した最適な生乳流通体制の構築

- ・ 新制度を活用した酪農経営等による付加価値を高めた乳製品の開発・製造販売の推進、あまねく集乳する指定事業者が果たすべき乳価交渉力、集送乳コストの削減、機動的な配乳調整等の重要な機能の確保
- ・ 国による制度の趣旨の徹底、指定事業者による酪農経営へのサービス提供・

情報開示、酪農経営による高付加価値化に向けた取組環境の整備等による新たな制度下での適切な生乳流通体制の構築 等

2 牛肉

- ・ 出荷月齢の早期化、繁殖雌牛の再肥育、交雑種雌牛の1産取り肥育等による、適度な脂肪交雑等の消費者ニーズにマッチした多様な牛肉生産、消費者の選択に資する食味等の指標化 等

3 輸出の戦略的拡大

- ・ 欧米等向け輸出のための高度な衛生水準を満たす食肉処理施設・乳業施設の整備、施設認定の迅速化
- ・ 輸出先国のシェフの招へい、統一マークの活用、多様な部位の販売促進
- ・ ブランド価値を守るための和牛遺伝資源の流通管理の徹底、知的財産的価値の保護の強化 等

V 酪農・肉用牛生産の持続的な発展のための対応

1 災害に強い畜産経営の確立

- ・ 各経営や地域での災害への備え
- ・ 飼料穀物の備蓄、畜産施設での非常用電源設備の導入促進等による甚大な災害からの早期の経営再開

2 家畜衛生対策の充実・強化

- ・ 手荷物検査の強化や違法な肉製品持ち込みへの対応の厳格化等による「持ち出させない」「持ち込ませない」ための水際検疫の徹底
- ・ 国、地方公共団体、生産者の役割の明確化等による「農場に入れない」ための国内防疫の徹底

3 持続的な経営の実現と畜産への信頼・理解の醸成

- ・ 持続可能性を確保するための生産工程管理の取組であるGAP等の推進
- ・ 家畜排せつ物の適正な管理と利用、放牧推進等を通じた資源循環型畜産の推進
- ・ HACCP等製造・加工段階での衛生管理や飼料・動物医薬品等の安全確保等を通じた消費者の信頼確保
- ・ 地域貢献や地域活動への参画等を通じた畜産への国民理解醸成、食育等の推進

第2 生乳及び牛肉の需要の長期見通しに即した生乳の地域別の需要の長期見通し、生乳の地域別の生産数量の目標、牛肉の生産数量の目標並びに乳牛及び肉用牛の地域別飼養頭数の目標

(基本計画と合わせて検討中)

第3 近代的な酪農経営及び肉用牛経営の基本的指標

第4 集乳及び乳業の合理化並びに肉用牛及び牛肉の流通の合理化に関する基本的な事項

I 集送乳及び乳業の合理化に関する基本的な事項

1 集送乳の合理化

- ・ 条件不利地域も含めて集乳を担う指定事業者を中心として地域や県、ブロックを跨った効率的な集送乳路線の構築等の流通合理化を推進 等

2 乳業の再編・合理化

- ・ 中小乳業を中心とした高度な衛生管理水準を備えた施設等への再編・合理化を推進 等

II 肉用牛及び牛肉の流通の合理化に関する基本的な事項

1 肉用牛の流通合理化

- ・ 生産者との連携を強化し、受精卵由来の和子牛等の取引も含めた家畜市場の再編整備を推進 等

2 牛肉の流通合理化

- ・ 畜産農家、食肉処理施設、食肉流通事業者がコンソーシアムを形成し、生産現場と結びついた食肉流通改革を推進

(参考資料)

生産基盤強化のための地域連携モデル